

<p style="text-align: center;">月報</p>	<p style="text-align: center;">日本キリスト改革 横浜中央教会</p>	<p style="text-align: center;">6月号 2014年6月15日</p>
---------------------------------------	--	---

対外献金について

K. Y

今回はこの紙面をお借りして対外献金についてご案内致します。対外献金は大きく分けて、内容としては宣教と奉仕に分けられ、対象としては国内と海外に分けられます。

国内宣教

改革派の働きとしては、直接的な教会支援として、東北伝道、四国伝道（以上援助献金：以降援助と略）の他、新潟伝道所（月末）、沖縄伝道などの支援を行っています。また、高校生・学生、青年を対象としたリトリート、メディア伝道を行っているCRCメディアミニスター（月末主日献金：以降月末と略）、盲人を対象とした静岡キリスト教盲人伝道センター（援助）また、牧師養成を目的とした神戸改革派神学校、改革派神学研修所（援助）に支援を行っています。

改革派以外の超教派的な働きとして、聖書日献金は、日本聖書協会に献金しました。一昨年は聖書配布を行っている国際ギデオン協会、昨年はメディア伝道を行っているPBA（太平洋放送協会）（月末）に献金しています。また、今後は昨年月報でご紹介したKGK（キリスト者学生会）やH1-BA（高校生伝道協会）（以上月末）にも献金できたらと願っています。

海外宣教

改革派の働きとしては、ガンビアで宣教されている川島姉（月末）を支援しています。また、改革派以外の働きとして、昨年からは、主に中国語聖書を印刷している新生宣教団（月末）に献金しています。

国内奉仕

改革派の働きとしては、東日本大震災献金を大会執事活動委員会を通して、また東仙台教会（月末）に献金しています。

海外奉仕

改革派の働きとしては、大会執事活動委員会を通して、いのちの水（中国の孤児支援）、アメリカハリケーン、フィリピン災害支援（以上月末）のために献金しました。今年はずでに国際飢餓対策機構を通してフィリピン台風緊急募金（月末）にも献金しています。また、JOCS（日本キリスト教海外医療協力会）に使用済み切手を送ることにより、海外医療協力に参加しています。

月末主日献金について

月末主日献金では、東仙台教会、新潟伝道所の支援を中心に、災害援助の他、特に緊急な援助を必要とされている活動に対して、臨機応変に献金しています。

「彼は惜しみなく分け与え、貧しい人に施した。彼の慈しみは永遠に続く」と書いてあるとおりです。IIコリント9:9

どれが、幸いに至る道か (エレミヤ 6・16)

K. K

私達の国は今、大変な時を迎えています。国民にとり重要な事が現政府により簡単に換えられようとしています。どうしたら止める事が出来るのでしょうか。

私は洗礼を受ける時にこんな事を考えました。
もし戦争中のように宗教弾圧が起こっても、信仰を守る事が出来るだろうか。
10年前の事です。でも当時はそこまで考えて洗礼を受ける人はいないだろう、と軽く考えていました。最近その事をよく思い出します。そういう状況になっているということです。

ニュースで原発反対のデモの様子が写し出されました。そこには高齢のシスターがデモの先頭に立って歩いていました。自分の立場を隠すことなく堂々と。心をうたれました。人間はいざという時にその人の真価が問われるのでしょうか。

原発に関しては、国には過去に戻るのではなく夢を語って欲しい。風も太陽も必要なものは用意されています。どうして経済性ばかりを語るのでしょうか。再稼働のニュースを見るとガッカリです。

国のトップに必要なものは「愛と夢」だと私は思うのですが、どうでしょう。国民を愛せない人にはトップになって欲しくない。

「世界一企業が活躍しやすい国にする」と言うエライ人がいます。

「世界一国民が働き易い国にする」が本当です。

国民に愛がないからそんな事を平気で言えるのです。いかに安く働かせるかばかり考えています。そんなのでは少子化なんて止まりません。

憲法にしても、現在に合わないとか押し付けられたものだと言っている人達が多数います。ある人が、そういう事より「正しいかどうか重要なのだ」と発言していました。賛成です。

前の戦争の事でいまだに他国ともめています。自分の頭の上を戦闘機が飛ぶのはどれほど恐ろしい事か、想像力が欠如しています。世界各地で紛争かおり、泣いている子供達があります。勇ましい事を言う人達は心が痛まないのでしょうか、涙は見えないのでしょうか。

愛について私が話す時、傲慢になりませんように
謙虚に静かに話せますように
自分を正しいと思い過ぎませんように、折ります。

私がクリスチャンになったきっかけ

F. S

皆さんはご自分の目が、相手にどの様に映っているかを考えた事がありますか？

私がキリスト教に出会ったきっかけについて、この「目」をキーワードにしてお話ししたいと思います。私は日本のごく一般的な仏教を信じる家庭で育ちました。そんな私が22歳の時、留学をきっかけにアメリカに住むことになりました。当時、アメリカの田舎の大学ではまだ留学生が少なかった為か、クラスに留学生は私一人でした。自分よりも体格が倍くらい大きいアソリカ人に囲まれ、理解できない会話が飛び交っている教室の中、私は恐ろしく固まっていた。授業中は他の生徒がなるべく視野に入らないように、座る席はいつも最前列のど真ん中、先生とお見合いでもしているかのような状態で授業を受けていました。そんな私の隣の席にいつも決まって座る学生がいました。その子は私が鉛筆を落とすとさっと拾ってくれ、先生が説明しているページが分からなくなると指で教科書を指してさりげなく教えてくれたり、私の事をそっと面倒見てくれていました。

彼の名はKと言います。緊張する私が初めてKの顔を見上げて会話を交わした際、彼の目を見てとても驚いたのを今でも覚えています。それは彼の目がとっても澄んでいたので。それはKが外人だからとか、青い目だからとか、決してハンサムだからという事ではありません。彼の目はとても紳士的で、他のアメリカ人男子学生の様な（いわゆるプレイボーイ的な）女子生徒に対する下心というものが全く感じられなかったのです。今思うと兄弟姉妹を思う気持ちで接してくれていた彼の優しさや愛情が目映っていたのだと思います。その彼の内面が目を通して伝わり、彼の目を透き通らせていたのでしょうか。理由は判りませんが、でもその時の私には、Kと他の生徒との「目」の違いがはっきり分かったのです。それからKと私は親友になりました。

一年後、Kに「Sを教会に連れて行きたいんだ。」と言われ、私は「教会なんて行けない。自分は仏教で育ったし、クリスチャンなんて気持ち悪いし、理解できないと思う。」とひどい言葉で断りました。その時初めてKがクリスチャンと知り正直ショックでした。Kは嫌な顔ひとつせず聞き、「オッケー。大丈夫だよ。」と笑って言ってくれました。その後も、Kの目がなぜ他の生徒となぜ違ったのか、どうしてもずっと心に引っかかっていた。

新しいクラスが始まり、授業の一環として校外で行われる講演を聴講しレポートを提出する課題が与えられました。一人でその課題に取り組む事にまだ不安だった私に、「手伝うよ」と声をかけてくれた学生がいました。その子と初めて話した時、私はまたもやビックリしてしまいました。彼の目を見て、外見はKと全く違うはずなのに、Kと同じ目をしていると感じたからです。

放課後、彼と何気ない会話をしている際、教科書の入っているリュックから聖書を取り出すのを見ました。「え！！まさかこの人もクリスチャンなの？！」衝撃と同時に「クリスチャンって一体何をしているのだろう？なんて彼らの目が違うんだろう。教会って一体何を教えているんだろう？！」と疑問がどんどん大きくなり、もう突き止めずには居られなくなりました。そして一度は断ったはずの教会ですが、今度は私から「教会に連れて行って。」と頼んでいたのです。それから3ヵ月後、私は洗礼を受けることになりました。

私が教会に行ったきっかけは、クリスチャンのお友達の「目」でした。彼らの目を通して他の人との違いを感じ、なぜだろうと心に疑問を抱きまし≡しかし「目」だけではなく、使う言葉や行動、漂わせる雰囲気、オーラ、しぐさ、気遣いなど、なんらかの形で自分と関わるの人に何かを感じてもらえるキーがあるのではないかと思います。それが誰かの“神様と出会うきっかけ”になってくれたら私は嬉しいです。だから職場でも友達にも、出来るだけ自分がクリスチャンという事を隠さず、また自分の普段の言葉や態度にイエス様の香りがほんの少しでもしてくれたいと思います。

私がアメリカに行ってKに出会ったのも、彼の目がきっかけでクリスチャンになったのも、全部神様が下さった恵みと計画だと思っています。アメリカ綿在中に神様に会えた事が、私の今までの人生で一番の出来事でした。これからも神様と一緒に人生を歩んで行きたいです。